

令和7年度(2025年度) 地域連携推進会議 議事録

第一回

2025年12月1日(月) 17:30~19:30

於: グループホームいしずえ

出席者: 利用者 H(いしずえ) 五十嵐(いしずえ) 坂本(まゆの家)
内田(旭南部地区連合自治会長) 金子(誠心会神奈川病院)
木内(生活支援センターほっとぽっと) 小久保(訪問看護ステーションリンクよこはま)
加藤(グループホームメゾンいさな) 横山(神奈川県社会福祉士会 / 保佐人)

【議事】

1. 自己紹介
2. 地域連携推進会議の主旨の共有
3. 役職決定
4. 施設内見学
5. 依存症回復施設の役割
6. ケース報告
7. 意見交換

[地域連携推進会議の目標設定について]

- ・施設の紹介や報告に終始するのであれば意義はない。地域連携推進会議の目標を明確にすべき。
- ・小学生でもわかる言葉で表現することは地域連携にとって大事な視点だ。
- ・横浜マック理事も会議に参加してもらう方が良い。

[依存症グループホーム特有の課題について]

- ・アルコール依存症治療特有の文化として匿名性を大事にしている側面もある。
- ・女性グループホームについてはシェルターとしての役割もあり住所は非公開。
- ・横浜マックを修了して就労した利用者がいれば、そこから地域との接点も生まれる。

[入居者や家族の視点から]

- ・依存症であることはいきなり開示できない。
- ・一般的にはまだまだ依存症への偏見や抵抗感もあると思うので、まずは安全性が必要。

[他グループホームにおける地域連携の例など]

- ・まずは町内会に参加することが大事。運動会参加や近隣の掃除から始めていくのがよいのでは。

以上の意見交換が行われた。

令和7年度(2025年度) 地域連携推進会議 議事録

第二回

2026年2月20日(金) 17:30~19:30

於: グループホームまゆの家

出席者: 利用者 K(まゆの家) 坂本(まゆの家) 五十嵐(いしずえ)
金子(誠心会神奈川病院) 木内(生活支援センターほっとぽっと)
小久保(訪問看護ステーションリンクよこはま) 加藤(グループホームメゾンいさな)
横山(神奈川県社会福祉士会 / 保佐人)

【議事】

1. 自己紹介
2. 施設内見学
3. ケース報告
4. 意見交換

[まゆの家の特徴について]

- ・入居者同士の声かけによって、主体的な自治が行われている。
- ・通過型グループホームなので、そのときどきの入居者層によって自治範囲が変わる。
- ・日曜日はピアスタッフが常駐。当事者ならではの助言もできる。

[利用者 Kさんの状況]

- ・入居して2年が経過。断酒を継続できている。将来的には自立して、自分らしく生きていきたい。
- ・グループホームを利用しながら就労を開始し、段階的に社会復帰を目指す。
- ・横浜マック修了後は地域で開催されている自助グループの関わりが重要になってくる。

[グループホームの意義]

- ・共同生活でのストレスはある。グループホーム内での物音や団体行動など。
→他のグループホームや一般のアパートやマンションでも同様のストレスは起こり得る。
グループホームでの生活を経験することで、社会復帰したあとの対処方法も身につく。
- ・他者とのつながりが依存症の回復にとって不可欠。孤立しない環境での生活経験が大事。

以上の意見交換が行われた。